

# 「東日本大震災」対策 news NO.39

2011年4月28日(金)

生協労連震災特設 URL <http://cwu.jp/action-cms/shuto/>

全国生協労働組合連合会

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-1-9

TEL 03-3408-0067 <http://cwu.jp/>

FAX03-3408-8955 QYG03057@nifty.ne.jp

## 当面の支援、復興に向けてのとりくみについて

4月26日、全労連の東日本大震災対策本部会議が開催され、当面の支援、復興に向けてのとりくみを確認しました。

### (1) ボランティア派遣は、5月中も継続して実施します。

災害被災の大きさや、被災地域の多さから、ボランティア派遣については5月中も継続します。同時に、被災地の復興がすすむにつれて、被災地での日常生活も徐々に回復してきています。6月のボランティアについては現地とも相談し、こんごの検討課題とします。なお、地域は引き続き、宮城県と岩手県とします。

### (2) 労働相談活動の準備をすすめます

雇用問題が深刻となっています。現在は行政を中心に労働・生活相談が集中していますが、県労連を中心に労働相談活動を本格的に実施するための準備をすすめます。提起があり次第、全国に協力を呼びかけます。

### (3) 対政府、東電に向けてのとりくみを強化します

政府の「復興構想会議」が6月中の提言をめざし、動き出しています。「復興税」構想も打ち出され、被災者含めての国民負担も打ち出されています。阪神・淡路大震災の経験からも、被災地本位の復興をめざしていくことが重要となります。また、福島原発事故の早期解決と被害補償のとりくみもますます重要となっています。当面、政府の第一次補正予算への要望書の提出、さらには、「被災者本位の生活再建と地域社会再生」署名と「福島原発事故の早期解決と被害補償」を求める署名にとりくむことを確認しました。全労連の常任幹事会で確認されることとなります。

また、当面の行動として、5月25日に中央請行動を実施します。上記の課題を求めての行動にとりくむとともに、最賃1,000円の実現をめざしての行動にもとりくみます。

### (4) 募金のとりくみを継続します

全労連にはこれまでに2,340万円ほどの募金が集約されています(4月25日現在)。これまでに被災地の県労連などに1,100万ほど支出をおこなってきています。長い支援、復興のとりくみとなりますので、募金は継続してとりくんでいくことを確認しました。

### (5) 物資支援については、中止します

被災地では生協含め、スーパーや小売店などが営業を再開し、日常的な生活物資などについては手に入りやすくなってきています。また、物資への要望も変化してきています。倉庫にはまだ在庫もあることから、物資支援については中止を決定しました。この間のご協力に感謝を申し上げます。



4.26 東電前抗議行動

# ボランティアに参加したかながわ生協労組梅津副委員長からの報告 今後も継続支援が必要

震災から一ヶ月経過しているというのに、上下水道、電気、ガスはまだ不通でした

2011年4月18日～22日まで全労連・災対連の呼びかけによる、宮城県石巻に支援ボランティアで参加しました。4月18日御茶ノ水の全労連会館を10時に共同バスで出発し、仙台の支援センターに15時に到着、センターで明日からの支援内容の説明を受け、その日はその事務所に宿泊しました。19日は9:30に石巻の支援センターに向かうためマイクロバスで出発しました。石巻支援センターに11:00に到着し、支援センターの責任者中山さんから行動内容や注意事項の説明を受け、昼食後石巻市立女子商業高校の片付けを行いました。女子商業は渡波地区で1階部分は津波で破壊されていました。地震当日は授業がなく不幸中の幸いに生徒の犠牲者はなかったとの事でした。職員室が流されてしまったため、3階の図書室を代替するために図書室の図書を別の教室に移動しました。



翌日はクラブ活動の部室の片付けを行いました。女子商業は海沿いに建っていて、防波堤、防風林をはさみすぐ校舎になっています。校舎よりも更に海側に建っていた部室には砂と松葉で埋まっています。砂を土嚢袋に詰め一輪車で運ぶ作業を行いました。

土砂の中には賞状や優勝カップや楯などがありました、「ゴミとして片付けてよい」と先生に言われての作業でしたが生徒達の事を思うととても辛い作業でした。

3日目は石巻市中浦地区にある、デイケアホームの片付けに行きました。建物は一見何の被害もなさそうな状況でしたが、床を上げて中のヘドロを取り除く仕事を命じられました。しかし備品が整ってなく、

床を上げるためのボールなどがなく、周りの片付けだけに終わりました。

この地域も震災から一ヶ月経過しているというのに、上下水道、電気、ガスはまだ不通でした。

今回支援ボランティアに参加して、復興にはまだまだ長い年月が必要だと思いました。その為には行政、国政は勿論、我々民間の支援も継続的に持続させなければ不可能です。今後も復興に向け力を注いでいきたいと思えます。

